

議会広報広聴委員会記録

令和2年1月31日（金）

13時00分～14時36分

議会第1委員会室

- 【出席者】 三浦委員長、西川副委員長、
村武委員、川上委員、小川委員、野藤委員、笹田委員、芦谷委員、
佐々木委員、澁谷委員
- 【事務局】 篠原次長、近重書記
-

議題

1 議会報告会について……………資料1

(1) 運営方法について

- 会場ごとにテーマを決めるかは改めて検討
- 会場は、これまでと同じとするか変更するか検討
- 運営方法は、議会活動の報告と、意見を聞く時間を取る形を行う
- 開催期間は5月11～15日の間に行う
- 班編成は委員会ごとにするのかバラバラにして行うのかを検討（会場数が決まってからの判断）

(2) その他

- 特になし

2 はまだ議会だよりのリニューアルについて……………資料2

(1) リニューアル案に対する意見について

- 市議会ホームページのリニューアル案を正副委員長から後日提案
- 市民との対談記事を連載企画として検討。手法は後日正副委員長から提案
- 個人一般質問の掲載をSDGsをベースにテーマ分けした場合の掲載案を正副委員長で次回提案

(2) その他

- 特になし

3 行政視察について……………資料3

(1) 視察先について

- 広聴機能の強化として個人一般質問後の取扱について可児市議会を第1候補として選定予定

(2) その他

- 特になし

4 その他

- 特になし

【次回委員会開催予定日】 令和2年2月19日（水） 13:00～ 第1委員会室

【議事の経過】

[13時 00分 開議]

三浦委員長 議会広報広聴委員会を始める。出席者は10名で定足数に達している。

1. 議会報告会について

(1) 運営方法について

三浦委員長 事務局から説明があるか。

近重書記 5項目ある。春予定。班編成、会場、実施時期を詰めていただきたい。

三浦委員長 議会報告会をどのように行えばいいか、案を作成した。それをもとに皆さんの意見をうかがいたい。

春の議会報告会は目的をどのように設定するか考えた。現在、議会報告会と地域井戸端会と年2回市民と対話の場を設けておりますけれども議会報告会は、政策形成サイクルに乗せて意見を拾い上げ政策に反映させる取組をはじめておりまだ不十分なところがあり定着させるため、議会報告会は昨年同様にこちらからテーマを投げかけて市民の意向調査の場にしたらどうかと考えた。しかし先般の福祉環境委員会において澁谷委員がおっしゃっていたが、予算編成のスケジュールとかこうしたとところに政策討論会をどうスケジューリングしていくとか、大きくかかわる時期を考えねばならない。また、どういったテーマを扱うか争点も重要。

井戸端会については、自由に市民の方々が意見・要望を行う場として設けようではないかということとする形ですみわけを提案したい。犬山市の市民スピーチの形式を変えることで目的達成するのではと思った。方向性については、先ほど申し上げたとおり、これまでの議会報告会を踏襲したテーマ型で行い、政策形成サイクルの定着と議員間討議のその後の促進を図ることで進めてはどうか。

時間配分は予算概要、質疑応答を30分、常任委員会が選定したテーマについてのワークショップを90分という素案を作成した。これをたたき台に、運営方法について皆さんから意見をうかがいたい。

西川副委員長 政策形成サイクルについてはおさらいだが、議会運営委員会で作られた政策討論会資料をご覧いただきたい。一番上に井戸端会がある。サイクルの中で意見を集約・整理ということでこの中で5月に行

う議会報告会が入っていないので、位置付けをはっきりしたい。実際は常任委員会後にテーマを決定して後に議会報告会が入るのではと思う。

三浦委員長

ご意見をうかがいたい。

川上委員

井戸端会については、市民スピーチの形成で目的が達成されると思う。前委員会からの提案もあるので生かしてもらいやってみるのが大事。

野藤委員

5月の議会報告会が政策サイクルにおける住民意向調査の場となっている。先般、総務文教委員会で、石見交通バス路線廃止に関わる行程表が出された。そこと関係あるところで、喫緊の課題としての公共交通について意見聴取の場としたらどうか。

三浦委員長

各常任委員会が喫緊の課題等、政策討論会に挙げていこうというテーマを選んでもらって、それに各委員会でテーマ設定をして見合う会場やテーマを配慮するということか。

澁谷委員

政策討論会と井戸端会を5月にタイアップするというものではない。地域井戸端会の意見は去年も一昨年もいいわけで。地域井戸端会を5月にして今年の政策討論会は6月になるかもしれないし、去年のように8月にやったら10月で遅いという意見があったので幹事会で6月にやる可能性もないわけじゃない。5月に聞いて6月に政策提言ができるかというできない。政策討論会で取り上げるのは去年、一昨年に拾った意見でも構わない。あまりがちがちに絡めると機能しなくなる。地域井戸会は市民の声ということで、ほかの皆さんにはそれぞれ後援会やいろいろな団体で声を聴いている。そういう意味で地域井戸端会を入れている。あまり窮屈にタイアップすると難しいので配慮いただきたい。

野藤委員

窮屈にする意見を言ったのではなく、公共交通の問題は中山間地域振興特別委員会でも総務文教委員会でも取り上げてきた。たまたまバス路線廃止の話が出たので、関係住民の意見を聞くというのも全体の政策討論会の中山間地域の公共交通の関係で、より具体的な意見も聞けるのではないかと思い、ご提案した。

三浦委員長

その他にあるか。

川上委員

春の議会報告会については、政策形成サイクルにおける住民意向調査の場。澁谷委員の言われるこれまでの意見を基にして政策討論会の形成サイクルに乗せていきたいと思う。春の議会報告会について

- は野藤委員のテーマを設けて聴取するにとどめていい。
- 三浦委員長 テーマを設定しての議会報告会の開催は賛成だが、1年を通じた予算編成のスケジュールに組み込むような形には、無理やり押し込まなくていいということか。
- 川上委員 はい。
- 澁谷委員 常任委員会にて選定したテーマに基づき、とある。常任委員会で意見集約するなら、常任委員会ごとに班編成すれば良いと思う。その辺はどうか。これまではバラバラに編成していたが。
- 三浦委員長 政策形成サイクルを1年間回す中で、5月の議会報告会を必ずその年度の予算編成の中で政策形成サイクルに乗せなくてはならないことはないのだと感じた。常任委員会で政策討論会のテーマを投げかける場として使えないかという視点が入っていたので、常任委員会という名称が出ている。
- 澁谷委員 澁谷委員が言われたように、常任委員会で動いたら委員会ごとごとに班編成をすればいいというのもご意見として皆さんに諮ることかと思う。
- 澁谷委員 政策討論のスケジュールに入れたい意向があるなら2月くらいにやるべき。
- 三浦委員長 政策形成サイクルを動かしていくときに、アクティブにするときにこの議会報告会をどのように活用するかを考えれば、時期をずらして活用していくことも今後検討していかないといけない。
- 芦谷委員 他にご意見があるか。
- 野藤委員 福祉環境委員会では認知症条例出した。その後、総務文教委員会や産業建設委員会の結果はどうなったのか。
- 芦谷委員 総務文教は再検討となった。
- 小川委員 政策討論と、広報広聴の議会報告会は必ずしもリンクさせなくてもいいのでは。
- 小川委員 春の議会報告会は、もともと3月の予算関係を説明して、市民の意見を集約するのが目的だった。今の政策形成サイクルとの関係でいうと前のパターンで行くと秋の地域井戸端会からでそれを辞めて春にするとスケジュールのことで春の議会報告会を今までの位置付けから変えた方が良いのか。予算編成の関係に合わせるとすれば地域井戸端会を考えればもっと前倒しが必要になる。春の議会報告会を政策形成サイクルに組み込むか組み込まないかを決めた方が良いの

ではないか。芦谷委員が言うように年間を通して動いているし常任委員会の活性化と言われる中では、それぞれの委員会のテーマを決めながら進むと思うのでその中で意見聴取の場として今までどおりで良いように私は思う。

村武委員

昨日の福祉環境委員会では、今年度の委員長の思いはテーマを決めて、それについて委員会で勉強や議論をしようという流れになっている。そのテーマを昨日の福祉環境委員会できめた。それは必ずしも政策討論会に向けたものにはならないかもしれない。しかし委員会として議論していくべきという話になった。サイクルに当てはめるといっても委員会によって違うのではと思う。

佐々木委員

もともと議会報告会を5月にしたのは、議会が何をしているか執行部とどういうやりとりをしているかを知ってもらうための会だった。井戸端会が秋に始まって、5月にも井戸端会と一緒にやるようになって、議会報告会の意味合いが少し薄れてきた。議会報告という視点をもっと鮮明にするべきではと思う。

また、いろんなテーマはその年年で変わるものではない。去年も2、3年前も同じ意見の場合もある。そうでないと地域の課題ではないと思う。この委員会でやるのか、それとも所管委員会で吸い上げるのかは、議論せねばと思う。大事なものは、議会報告会でやるのは幅広い意見を聞いて、それに対して反応をしてあげることだと思う。テーマを決めての意見聴取は政策討論をやる各常任委員会にある程度任せたらどうか。

笹田委員

今までと同じことをやっても人は来ない。何かしら変化させて市民の意見をもう少し聞きたい。議会広報広聴委員会が手本になってやるのもいいと思う。皆さんと意見を出し合って良い方向性を出したい。

三浦委員長

さらにご意見をお持ちの方がおられたら伺いたい。

佐々木委員

議員の中で政策を決めて提案するというのもあるが、それ以前にテーマに対して市民が何に困っているかを聞いて、専門家の意見なども伺って地域に合った政策を練り上げていき、提言することを所管の専門常任委員会ですべきでは。それを議会広報広聴委員会がおこなうと入り乱れる。テーマを決めてやるなら所管委員会が専門的にやる方がやりやすいのかなと思う。

三浦委員長

常任委員会でテーマを決めてしっかり議論し市民や関係団体に聞

いていくということが常任委員会ごとに広聴ができればそれで良いが、今の常任委員会にはできてない実態があると思う。常任委員会と議会広報広聴委員会がすみわけをしながら役割を果たすというのが共通認識として持てればベストだが、議会広報広聴委員会だけが行っても意味がない。議会全体の共通認識としなければ。テーマを掲げて意見を聞くという議会広報広聴委員会がやっていた活動を常任委員会がやれないとなるとこれまでやったことが戻りその場をどうするのかということになると個人的に思う。

佐々木委員

所管委員会がやるべきことがなくなる気がする。全体の中で整理することを決めてからやるべき。どこかで整理して進めるべき。

澁谷委員

市民の声の聞き取り方をどうするかについては、ここでやる方法もあるし、議会運営委員会で提案してもらう方法もある。広報としてどういうやり方にするかという時に、年に何回するのか井戸端会方式でやるのか、やり方を変えて市民スピーチ法にするのか、それを決めていかないと、毎回どうするかという話にならないか。団体に対して出て行って話を聞こうという意見もかつて出たことがある。かみ合わせて市民の意見をくみ取るか、政策提言とか執行権を動かして予算付けできればいいが。

三浦委員長

議会広報広聴委員会として行う議会報告会・井戸端会は、幅広く市民から意見をうかがう場としたい。テーマを設定しながら意見を聞く役割は常任委員会に求めるスタンスで共通認識を持つということではよろしいか。その目的が持てれば報告会をどういうテーマ設定にできるのではないかと思う。

佐々木委員

まだ整理ができてない中で、例えば先ほどもバス路線廃止の話が出ている中、地域に出向いて行く、班の場合は地域の問題になっているだろうという時に出ていく手法も必要だと思う。臨機応変な対応が必要では。

三浦委員長

今回の議会報告会は、佐々木委員からも提案もありもう少し議会としての活動を報告するような時間も取りながら、予算報告と議会活動報告を5月に行い、それに対して意見を伺う場として、秋の井戸端会は形式は今後検討するとして、自由に意見・要望をここが発する時間を多く持てる場としていく。そういう形でよろしいか。

笹田委員

あまり常任委員会に押し付けず、地域の課題をテーマに話を聞くのは住民意見を聞くのは広報でも良いと思う。地域に出ていくのだ

から、意見聴取は議会広報広聴委員会で良い。地域課題を拾い上げてテーマにするのは議会広報広聴委員会がやれば問題ないと思う。地域に住んでいる課題はしゃべりたいから来る人は多いと思う。関係ないテーマにしても人はこない。ターゲット絞ってテーマを絞って多く来てもらい多く聞くためにはいいアイデアだと思う。

三浦委員長

テーマを絞った際に常任委員会でも出向いた方が良いという意見についてはどうか。チーム編成の話にもなってくるが。

佐々木委員

常任委員会で調査するのは、地域の問題もあるかもしれないが、多くはその関係団体、対象の住民の方々である。地域に関係ない人で調査をするとテーマが変わる。テーマを決めてやるという所に少し違和感がある。むしろ聞きに行くのだからいろんな意見を広く聞かせてもらう方が良いのでは。

西川副委員長

サイクルの時期に拘らず皆さんの意見を広聴する場として活用すべきだと思う。去年は各委員会からテーマを2、3こちらから持って行った。その結果自由にしゃべりたい人もいた。それを踏まえてどうか。私は割と良かったと思うが。少し反省しながら同じパターンでもいいのかと思う。

村武委員

議会報告会と井戸端会の違いをはっきりすべきだと思う。議会報告会は議会のことをより知ってもらうということで、予算の話や活動報告、意見聴取なのか。昨年とその前も報告後にワークショップをして地域井戸端会と変わらない気がする。議会報告会と広くテーマを設定するのか。目的みたいなものを皆さんと共有してやらなければと思う。

西川副委員長

去年のスタイルは、それまでの予算報告をメインとしていたが広聴メインにしようということだった。

村武委員

そうであれば、例えば名称が「議会報告会」なので、報告を聞けるという思いで参加されているのかと思った。それなら名称を変えるべき。我々議員の目的が市民に伝わっていない感覚があった。

澁谷委員

市民との距離を近づけるため、また、議会からの情報提供を図るため。説明者によって莫大な予算報告のうち何をピックアップするか違う。議会は年2回来てくれるというプラス評価は得ている。

野藤委員

平成24年からの参加人数の一覧グラフある。30年を境に上向きになっているということは、方向性は良いのだろうと思う。特殊な要因がなければ大幅に変える必要はないのでは。

三浦委員長

なぜやるかは、市民との距離を縮めること、聞くことも伝えることも双方向のことだと思う。継続することは総意。これは前提としてある話で、あとは中身。5月について予算報告の時間を取る、あるいは議会活動について説明する時間を取るか。これは春になっても秋になっても、議会報告の時間はあってしかるべき。春はこう、秋はこう、ではなく、こういう機会があるごとに報告と広聴をやればいい。

今このタイミングでは、5月において双方向の流れを作って予算・議会のことを伝える時間を取りながら、テーマは後で広聴の時間も取るということでどうか。

野藤委員

グルーピングをした方が私は話しやすかった。春の予算は市で一番大変な話題で、市民生活にも直結するので報告はするべきだと思う。

小川委員

今まで議員からも出された意見としては、会場の数について。8か所から多くて10か所を想定しているが、ある方からすると、公民館分館単位まで出向いたらどうかという意見がある。今まで同じ会場に行けば同じ人が来る。違う場で違う人の話まで聞くということまでは今まで議論にならなかった。会場を倍にして班メンバーを減らして班数を増やし、会場を増やすとかも検討しては。

三浦委員長

会場を増やししながら、班編成にもかかわってくる意見が出た。

川上委員

5月の議会報告会は3月定例会議の予算もあるので説明をした方がいい。その中で議論されたか、必要なら以前のようにパワーポイントで議論の結果を伝えるとかそれが市民と近づく方法だと思う。検討していただきたい。

佐々木委員

より多くの場所でやる、これも大事。あとは決まった所へ毎回行くのではなく違う会場に行く。それから、議員が何を発言しているか。実際にはいろいろやっても市民の方にお伝えする場がない。議会だよりで伝えられるのはごくごく一部でしかない。重要なところはこの場で資料を作るのは大変だけど発信すれば住民の皆さんからすると、議場に来なくても一定程度確保できれば機能するのでは。

別件だが議員がきて話を聞いてくれるのをやってほしいとの声は聞くので地道ではあるが定着はしてきていると思う。

三浦委員長

他にあるか。実施の方法と議会活動の報告をより充実した資料を用意しつつ、時間を取りつつ、意見を聞く時間と2つに分けて、例年

	どおり5月に開催する。
澁谷委員	おそらくゴールデンウィーク明けで、他の委員会の視察はその時期を外している。やるということで良いと思う。正副委員長から大枠の原案を出していただきたい。
三浦委員長	班編成のご意見もいただこうと思ったのだが、テーマを決めるなら常任委員会ごとが良いのでは、会場については班人数を減らして会場数を増やす、等の意見が出たので、こちらでまとめなおして改めて後日皆さんにお伝えするという事によろしいか。 (「はい」という声あり)
澁谷委員	いままでは、常任委員をバラバラにしていたが、実施してみると関係なくて常任委員会単位で動いてもいいと感じる。来年の政策提案にも使えるような意見が出るなら常任委員会でまとめた方が良いかという思いもある。正副委員長にお任せする。
野藤委員	会場数が増えれば事務局が大変では。
西川副委員長	次回から事務局は行かないという話もあった。
三浦委員長	それも踏まえてこちらでまとめる。
芦谷委員	議会広報広聴委員会委員が各班に入らないと具合が悪い。それも考慮してもらいたい。
三浦委員長	いただいた意見を配慮して素案を再度作りたい。 議会報告会についてその他あるか。 (「なし」という声あり)

(2) その他

三浦委員長	その他についてなにかありますか今までの話の中で事務局から何かあるか。 (「なし」という声あり)
-------	------------------------------------------------------

2. はまだ議会だよりのリニューアルについて

(1) リニューアル案に対する意見について

三浦委員長	前々回、12月6日に広報広聴委員会活動方針として正副委員長が考えた活動方針を皆さんにお示しした。今後の活動、議会だよりの編集方針についてもある。これについてのご意見をいただきたい。
川上委員	ウェブサイトでわかりやすくという意見があった。正副委員長でどういう形にしたいかを見せてもらったらわかりやすいのだが。ど

こかを例にしても結構だ。

三浦委員長 それは作成して、具体的にご提案したい。

川上委員 リンクの必要があるが、それもすっきりと飛べるようにしてほしい。

三浦委員長 その次の次、ウェブのリニューアルがある。現在の市議会ホームページの階層が複雑になっているので、リンク貼り直し等改装や修正を随時していきたい。事務局やサイト担当部署とも話をしている。

澁谷委員 あまりに質問スペースが少ない。写真サイズも非常に小さい。そういう規制を考慮した上で見ると非常に質が良い。全面カラーでないのが惜しい。しかし、正副委員長でもっと思い切りやっても良い。あまりにスペースが少ない。まだ少し遠慮している感があるので、もう一段階アップするために。

野藤委員 議会だより紙ベースとしては、今までと違って概要版になり、あとはウェブ版になるのか。

三浦委員長 これまでの広報誌発刊年4回は継続しつつ、発行する間にも行っている議会活動を掲載する。それを紹介するためのもの。

澁谷委員 事務局に負担がかかるので委員会メンバーがされたという所もある。三浦委員長と西川副委員長が正副委員長の間にはいいがバトンタッチしてある程度できる仕組みも検討してもらいたい。

三浦委員長 視察に行かせていただいた所でも、職員のスキルに依存してやれているケースが多かった。フレームをつくって誰でもができるような紙面の制作作業、工程を作れるようにしたい。

野藤委員 Youtubeのようなものはどうか。3～5分で正副委員長から今月の議会の動向を説明するのはどうか。

三浦委員長 それは正副委員長に限らず、皆でやれば良い。

2つある。新設部分とリニューアル部分を具体的に載せている。市民と議員が対話している企画連載をしたらどうかという案を提示した。これについてご意見をうかがいたい。新設なので完全にプラスアルファとなる。我々としては、さまざまな部分で市民と対談することで広聴機能の強化は図れると思う。どういう形ですのか決めてもらえば。

西川副委員長 広報紙には市民の顔が出ているのが良いという意見がある。もしやるならこの紙面は私が担当しても良いと思っている。

川上委員 西川副委員長ができて次の人ができないかもしれないので、そ

の辺はしっかり考えて欲しい。

小川委員

あきる野市の議会でもそういうことをされているが、取材のノウハウを持った人がいるのではないかと思う。そのノウハウにかかっているのであり、誰でもできるものではないように思う。

佐々木委員

自分が議会広報広聴委員長だった時に、実はこういうのをやりたいと思っていた。市民のみならず家族も見て広がるので。内容は素人がやるのだから素朴で良いと思う。それの方が市民ウケするので。

芦谷委員

その場合非常に難しいのは、執行部の広聴機能でやることだと思う。議会が取り上げる場合は相手先やテーマが非常に難しい。年4回の発行で。どの程度まで踏み込んでインタビューするのか。例えば公民館を選んだ時、その公民館だけで良いのか。

佐々木委員

公平性の面もあるかもしれないが、私は良いと思う。

三浦委員長

せっかく議会がやるなら、議会の目線で取り上げていいと思う。では、この特集企画はやってみるということで。手法についてはまたこちらから提案させていただく。

もう1つ。一般質問の掲載方法をリニューアルしたらどうか。個々に質疑応答ではなく、議員それぞれの関心や話題を際立たせるために例えばテーマで区切ったら読者は読みやすいのではないだろうか。SDGsのカテゴリは世界共通のもの。紙面にSDGsのような考えを取り入れながら編集していくのはどうか、というたたき台。ご感想をいただきたい。

小川委員

最初提案された時からすごく良い案だと思っていた。自分の一般質問がどの項目に当てはまるかを意識する機会にもなる。市民から見ても、入りやすい情報になると思う。

澁谷委員

具体的にどのようにやっていくかが見えてこない。各議員が5、6個質問したときそれぞれをピックアップするのか。その原稿作成や編集も議会広報広聴委員会が行うのか。そうすると委員会の負担も増えそう。

三浦委員長

イメージとして持っているのは、1つの項目の方もいれば複数の項目を扱う方もいる。分類は難しい。ご意見をうかがいながら考えたい。

澁谷委員

今、一般質問の項目だけは各質問者に割り振って、それ以外を作っている。その上でこれが出たら仕事量はどうなるのか、まだ見えない。

野藤委員	一番言いたかったことだけを取り上げて、それ以外は動画で見てもらう方法で良いと思う。
三浦委員長	そういう考え方もあると思うし、澁谷委員が言われたように複数のテーマを取り上げた時にそれを伝えたいというご意見もあると思う。複数の意見が出るだろうと思っていた。
野藤委員	複数扱うと伝わりづらいので1つで良いと思う。
三浦委員長	今一般質問でやっている2段の枠分くらいはあっても、紙面編集は物理的には可能だと思っている。今は1人の枠の中でやっている質疑応答記事をテーマごとに分類していくイメージがある。今までどおり各委員に、このカテゴリにこれを載せたいということで申請してもらおう。
小川委員	自分でテーマを選んで掲載すると。今は発言順だけど、テーマ順になる。手間はあまり変わらない気がする。
澁谷委員	やる価値はあるが、皆が慣れるまでに時間はかかるだろう。
西川副委員長	この提案に賛同いただければ、市としてはあまり取組んでいないが、先進自治体は既に取り組んでいる。見た目もインパクトがある。やるにあたっては研修会なりをして、紙面で「こういうことに取り組む」と周知して、皆さんの意識を統一してからと思っている。
笹田委員	毎回SDGsのマークは出し続けるのか。
三浦委員長	啓発もしたいのでSDGsとは、という説明は紙面が確保できそうなたびにやれば良いと思う。
笹田委員	質問ごとにアイコンをつけるのも良い。
三浦委員長	テーマごとに分ければ読者の方が分かりやすいと思った。趣旨をご理解いただけたなら、このように見えますということを次回お示ししながらご意見をいただきたい。それでよろしいか。 (「はい」という声あり) ではたたき台を改めて作ってきたい。

3. 行政視察について

(1) 視察先について

三浦委員長	いくつか視察先をピックアップしてみた。今回は広聴機能強化を念頭に選んでいる。議会広報広聴委員会の視察先として最適と言い切れない面もあろうかと思うが、幅広く広聴機能を強化していく意味で列挙していることを先にお伝えしておきたい。
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

まず1つ目は、一般質問の取扱い方について。今、一般質問は個人のメッセージとして執行部とのやりとりでとどまっているのを現状の課題として捉えた時、市民の方々の声や意見、各議員の着眼点といったものを政策に生かしてもらおうよう、聞いた声を形にしていくプロセスを強化しようということで、岐阜県可児市や北海道芽室町は、一般質問後の内容について常任委員会において所管事務調査のようなことを行うことを制度化している事例があるらしく、それを見たいと思って提案した。

2つ目は議会報告会のやり方について。執行部が特定の政策テーマについてシンポジウムを開くことはあるが、議会ではなかなかそういう事例が少ない。住民参加の課題共有型スタイルの事例を見たらどうかと思った。

1つ目は2015年のマニフェスト大賞を受賞した沖縄。沖縄式円卓会議という住民意見を集約するスタイルの会議をされている。

お隣の山口市は、NPO法人市民プロデュースという所が、市民と住民との対話の場づくりをかなり綿密にされていて、場づくりについてファシリテーションも含めて学びがあるのではないかと挙げて。

3つ目は、ひと・まち・住まい研究所。神戸で建築関係のお仕事メインだが、どういう場を作っていくかを非常に大事にされている方が住民意向や住民意識を吸い上げていくことを、すごく綿密にされていると聞き、住民からの意見をどう吸い上げるか、それをどのようにやると形にしていきやすいのかを学ぶ事例として良いと思って挙げた。

皆さんの関心ごともあると思うし、こういう勉強をしたらどうかという意見もあると思う。議会広報広聴委員会で広聴機能を高めていこうという念頭に置いた活動指針の中で、選定した事例であるということをお伝えしておきたい。

西川副委員長

SDGsの関係で3つほど調べてみた。1つは石川県白山市。それから群馬県桐生市。もう1つは兵庫県明石市。

三浦委員長

いかがだろうか。

澁谷委員

今提案してもらったのは、北海道も沖縄もあった。コースを選定してもらえない。

三浦委員長

これについて、というのがあるか。中心的に見たいものを決めて

きたい。

(2) その他

三浦委員長
近重書記

今までの話の中で事務局から何かあるか。
なし。

4. その他

三浦委員長

他に何かあるか。
(「なし」という声あり)
次回の開催時期について決めたい。
(日時について自由討議)
2月19日(水)13時でいかがだろうか。
(「はい」という声あり)
ではそのように、第一委員会室にて行う。
以上で議会広報広聴委員会を終了する。

[14時 36分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀